

# Web Usability & Accessibility

## 26 共同通信社サイト

http://www.kyodo.co.jp/

### テキスト中心のサイトでは読みやすい構成力と配慮が不可欠

イラク戦争の動向など最新情報を得るために、テレビ局、新聞社のWebサイトとともに通信社サイトを閲覧する読者も多だろう。国内外の「今」の様相を把握できる便利なサイトであるが、はたしてその情報整理は利用者にとって好ましいものなのか。日本の代表的な通信社である共同通信社サイトを事例に、濱田・石田両氏にテキスト主体のサイトに必要な要素を解説してもらった。

#### Usability (解説/石田直子)

図1

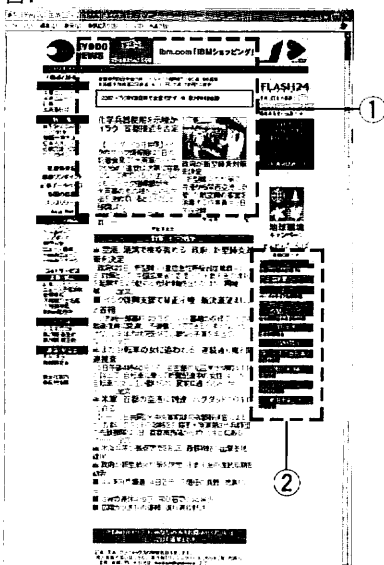


図1-①拡大

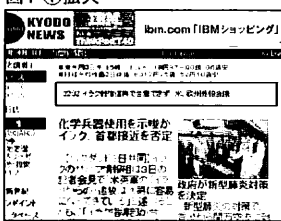


図2

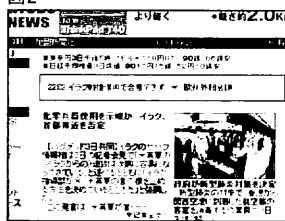


図4

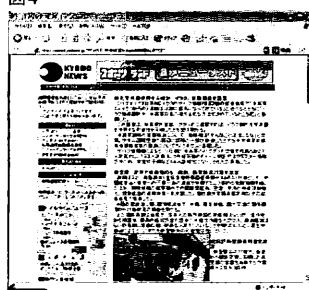


図3

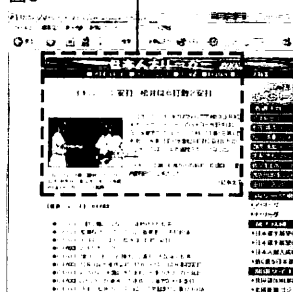
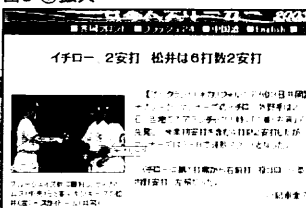


図3-①拡大



一つのページに複数のコンテンツを詰め込み過ぎると、個々のコンテンツが短くても、雑然とした印象を与えるので注意してください。

共同通信ではトップページにたくさんのメニューがありますが、メインの文章はそれぞれ少なめにまとめています。しかし、図4のような場合には文章を多めにとっているので、そのほかの構成要素は最低限のナビゲーションに留めるべきです。構成要素がシンプルであれば、テキストの分量は長くても苦になりません。テキストサイトこそ、情報の配分や整理の力が試されます。

#### 評価

- サイトの目的が伝わること ★★★
- 何がそのサイトの狙いなのかをトップページで表現します。
- 学習しやすさ ★
- すぐそれを使い始められるように、全体像と次に何をすべきかを伝えています。
- 効率性 ★
- デザインや構成が統一されていると作業の効率性が上がります。
- 記憶しやすさ ★
- 上記と同じく、デザインや構成が統一されていると記憶しやすくなります。
- エラーを少なく ★★
- エラーはないほうがよいのですが、避けられないものでもあります。回復方法が明確になるように。
- 満足を与える ★★
- ユーザーにとって楽しかったり、有益であったりというメリットが必要です。

#### 総合評価 ★★★

トップページからのリンクは別のウィンドウを開くものが多いのですが、別ウィンドウの必然性はありません。また、サイトのデザインの統一が徹底されていません。

世界情勢の動きにより、近頃ニュースサイトを見る機会が増えてきたように思います。ニュースサイトのメイン商品は、テキストと写真です。今回は共同通信社サイトを題材に、特にテキストを読ませるための工夫について考えてみたいと思います。

#### 【テキストの読みやすさ、リーダビリティ】

テキストの読みやすさ(リーダビリティ)を構成する要素は主に、「文字のサイズ」「行間の幅」「配色」「テキストの量」があります。これらの項目について、それぞれ見ていきましょう。

#### 【文字のサイズは相対値指定で】

Webサイトを見る環境は、ユーザーごとに異なります。「12ptの文字サイズにしたい」と思っても、解像度やフォントの種類、細かく言えば半角や全角、文字の種類、和文か欧文かによっても、文字の大きさに対する印象は変わります。

ブラウザの文字の表示サイズも、ユーザーにより設定が異なります。Web制作技術のCSS(Cascading Style Sheet)では文字サイズの指定ができます。これを使うと作り手がpxなどの単位で文字サイズを固定することができます。図1-①と図2はそれぞれブラウザの文字サイズ指定を変えたものですが、株価の表示は変わりません。解像度や文字のサイズ設定が違うということは、ユーザーがその人に合わせて設定していることありうるのです。CSSを使った文字サイズ指定で

はpxなどの絶対値ではなく、相対値(%など)を指定しましょう。

#### 【ひと手間かけて見やすい行間設定を】

意外と忘れがちな要素が行間の設定です。文章量が多いと、行がくっついたテキストは見づらくなります。これもCSSを使って設定することができます。図2と図3-①では、図3のほうが行間を広く設定しており、読みやすくなっています。行間も文字とのバランスが大事ですので、相対値で設定しましょう。

#### 【前景色+背景色には目に優しいものを】

前景色と背景色のコントラストを強くするのはいまや常識です。たとえ見出しでも、図1-②のような弱いコントラストの配色では見づらくなります。特にテキストを読むサイトの場合、一定の配色を凝視している時間が長くなります。このためコントラストが強いだけでなく、目に優しい、疲れない配色を試してみましょう。なお、背景色に原色系を用いると、コントラストが強くてもあまり好まれません。

#### 【テキスト情報の配分や整理力を】

一般的にWebページは長くないほうがよいのですが、テキストサイトについては例外もあります。テキストサイトは文章を読ませることが目的なので、ある程度の文章量は必要だからです。ただし、



アクセシビリティ分析担当  
**濱田英雄**  
(株)ユーディット 主任研究員  
hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当  
**石田直子**  
(株)ユーディット 研究員  
naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット

URL <http://www.udit-jp.com>

「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

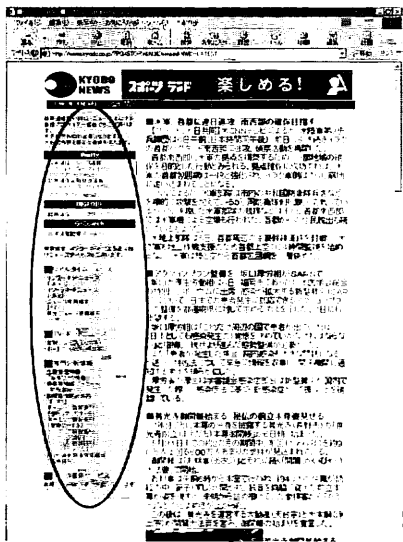
## Accessibility (解説/濱田英雄)

今回取り上げたサイトはテキストが中心なので、アクセシビリティに関してはかなりよいほうだと思います。でも、あと少しの配慮でよりアクセシブルにできるでしょう。

### 【ナビゲーションの問題】(図5)

このサイトは左側にメニューがあり、かなりの項目量があります。音声ブラウザ使用者は、ページにアクセスするたびにこのメニューを最初に読み上げることになり、読みたい本文にたどり着くまでに時間がかかります。ナビゲーションをスキップするリンクをつけましょう。

図5



### 【見出しの指定方法】(図6)

音声ブラウザ利用者には、いくら文字を大きくしたり、太くしても、本文と見出しの区別はつきません。しかし、音声ブラウザによっては、見出しタグ<Hn>を使うと、音で認識させてくれるものがあります。

本来、見出しは見出しを表すタグで書くことが必要で、<font>タグ等で大きさや太さを変えるべきではありません。タグを正しく書くことは、支援技術のための絶対条件です。

### 【全体像の把握】(図7)

このページでは、メニューが左右にあります。音声ブラウザでは、右側のメニューは本文の後に読まれます。全体の情報がわからない視覚障害者に対しては、ページ内に異なるメニューが本文の前後にあることを事前に知らせる必要があります。

図6

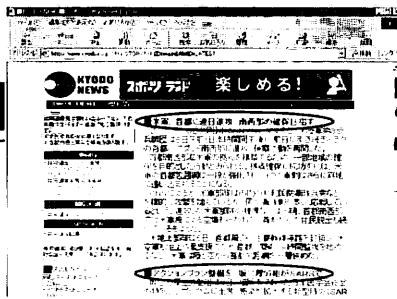
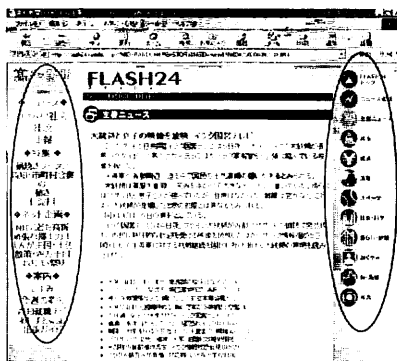


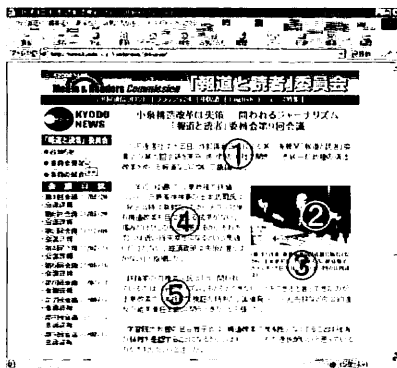
図7



### 【ALT属性のつけ方】(図8)

右側の写真ですが、下に説明が入っているのにALT属性に何も入っていないのは基本的に構わないのですが、音声ブラウザでは①～⑤の順に続けて読まれるので、写真説明と本文の区別がつきにくくなっています。写真説明③の始めに「写真説明」と入れるか、説明文の前に読まれる②の写真のALT属性に、「写真」や「○○の写真」等と入れてわかりやすくするという方法もあります。さらにわかりやすくするには、写真説明③の前後に隠し文字で「写真説明」「写真説明終わり」と入れるとよいでしょう。

図8



### 【デザインテーブル】(図9)

図9はデザインテーブルで組まれていることが

わかるように、分岐線を表示させたものです。顔写真と履歴の間に区切りが入っており、写真のALT属性には名前が入っています。

音声ブラウザでは、顔写真の名前を左から右へと横に読み、さらに履歴も横に読み進めます。フリガナも入っているので、ここでは結局名前が3度読み上げられることになり、顔写真と履歴との関係もわかりにくくなっています。こうした場合は、写真のALT属性はないほうが理解しやすいでしょう。

図9



## ----- 評価 -----

画像にはALT属性をつけること ★★★

ALT属性はついてはいるようですが、もう一步配慮がほしいところです。

リンクボタンになっている画像のすべてにALT属性を使ってリンク先を明確にすること ★★★★★

リンク画像にはALT属性がついているようです。

日本語のページでは外国語の乱用はせず、誰にでもわかるように配慮すること ★★★★★

あまり使われていないようです。

色によって伝えられる情報は、色がなくても伝わるようにすること ★★★

色による情報提供はないようです

HEADにつける<TITLE>は内容がわかるように適切なタイトルをつけること ★★

一部のコーナーでタイトルが同じになっています。

レイアウトのテーブルは、情報が適切に音声ブラウザで読み上げられること ★★★

一部に正しく伝わらないところがありました。

総合評価 ★★★★★

音声に対応できない新技術も一部使われています。